

## 資料 1

吹上の御庭に、桜・楓の苗多く叢生したるを御覧ありて、小納戸松下専助当恒「後伊賀守」に、よくやしなふへしと命せられしにより、別に花欄を設け、懇につちかひ、水そゝきけるに、いくほとなく其苗五・六尺はかりになりしかハ、広尾・隅田川のほとり、またハ飛鳥山に植られし、其中にも飛鳥山は、享保五年九月より植はしめて、凡桜二百七十株・楓百本・松百本植られしに、桜ハわきて年を追て枝葉しけり、花の時ハ燦爛として美観をなせり、其地ハ小十人のなにかしか采邑なりしを外にうつされ、元文二年二月十日、山をハ王子権現の祠僧金輪寺宥衛にたまハリて、永く社頭に寄附せらる、もと此祠ハ紀伊国熊野権現をうつしたるゆへに、公御発祥の地の鎮守を、はやくよりいはひそめしことをおほしめされ、かくハなされしなるへし、其つまひらかなる事ハ、成嶋道筑信遍に仰せて山上にたてられし碑文に記せり、此碑石も、かねて熊野山の石を引て、吹上の御庭にをかれしをもちひらる、さて此神の伝をも信遍につくらしめらる、又山

の麓に滝野川といへるあり、左右の岸に  
棣棠をあまた植、山上には桜に交へて松数十  
株をうへしめ、山より西の田つらにハ菜をつく  
らしめられしかハ、桜の咲ころ木間よりの  
そめハ、菜の花こかねをまきたるやうに見え  
て、其景色いはむ方なし、これ府内近き  
ほとりに名勝を開き給ふへしとの御事とぞ

「一説に、享保のはしめまでハ、毎春花の時、貴賤みな寛永  
寺にまいり遊興せしほとに、まく打まハし酒くみて、  
らうかはしかりけれハ、

祖廟近きほとりにて、もしや猥りなる挙動あらん、恐れな  
きにあらず、是府内に有楽の地乏しき故なりとて、飛鳥山  
を開かれしに、諸人それよりこゝにつとひあつまり、寛永寺ハ  
ありしに比すれハ大に  
ものしつかになりしとなり」

資料2

飛鳥山之事

一、享保五子年九月、桜苗木吹上二而廻、金輪

寺御物見向染井花屋伊兵衛持之山江

同月七日方植初、九日迄二植

一、桜苗木貳百七拾本

但、赤芽桜七十本

右掛り

若林 平蔵

坂尾源左衛門

御庭掛

須藤 宗庭

伊奈半左衛門家来

野沢太五右衛門

一、同六丑年三月十五日、右桜植候内江交植

一、紅葉 百本

一、松 百本

御庭懸

須藤 宗庭

伊奈半左衛門家来

星野 又兵衛

一、同年七月廿六日、飛鳥山新田其外堰上古

田共、滝野川村名主吟味、右掛り伊奈半左衛門家来

三浦安右衛門吟味相濟、絵図書付請取、松下

專助へ坂本源左衛門持参

一、同年九月、滝野川分堰上古田・飛鳥山共植

一、桜苗木 貳百五十本

吹上下役

福島市左衛門

伏見茂左衛門

植木屋

長助手代

茂兵衛

同十二日

一、桜苗木 三百本

同十三日・同十四日

一、桜苗木 四百五十本

右不残苗木根元方三寸程宛ニ伐植申候

子・丑兩年

都合桜木(千本)貳百七拾本植

右桜植仕廻候儀、松下専助場所見分、同月

廿日被相越、植候間五間程宛五二目ニ植直候様

被申聞、尤西ヶ原仁左衛門ニ植させ候様ニとの義ニ付、

仁左衛門申付、右桜根肥いたし養候様、滝野

川村綱差源之丞江被 仰付候

一、御用木桜枝折取へからす旨、高札七ヶ所建

一、山之内江野芝植付候様被 仰付候

請負人

滝野川村

源之丞

西ヶ原村

植木屋

仁左衛門

掛り

西脇十郎右衛門

坂尾源左衛門

多田 藤兵衛

伊奈半左衛門家来

星野 又兵衛

一、同七寅年二月九日、須藤宗庭参、金輪寺

山之内ニ有之候長八・九尺之紅葉拾本取出シ、

染井伊兵衛持之山并堰上畑・飛鳥山共ニ

三ヶ所ニ植

一、同十八丑年二月十七日、水茶屋十ヶ所飛鳥山

桜之内江建候様ニ与松下専助被申聞、新地奉

行日根野左京方江滝野川村源之丞届候

一、山之上 八軒

一、金輪寺御物見向道端 二軒

請負人

滝野川村

源 之 丞

西ヶ原村

仁左衛門

一、赤松 五本

一、おこそ躑躅 七株

右地鳥山<sup>(守カ)</sup> 御立場廻江植、右赤松者西南之方

御日除ニ御植させ候、御立場之所九尺四方竹

矢来出来、札建、御成之節斗取払、又々建置

掛り

藪田助右衛門

坂尾源左衛門

一、元文二巳年三月四日、飛鳥山御用地ニ上候ニ付、

同六日、右之段土岐大学頭へ書付ニ而申達、同

八日、野間藤助方伊奈半左衛門方へ引渡有之候

飛鳥山惣坪数、壹万六千五百坪

内、山上壹万二千九百坪  
山下三千六百坪

一、同日、大岡越前守宅江金輪寺被呼、王子

権現江飛鳥山御寄附被遊候旨、御書付

を以被仰渡候段、金輪寺方坂尾源左衛門申聞候

右飛鳥山之替地、野間藤助へ被下之

一、林寺町壹反三畝 中新井村

一、畑三町余 幡ヶ谷村

一、同年閏十一月二日、飛鳥山江石碑、四半時頃

吹上ニ而牛五疋地車ニ而来、山上江者人足三

百人程手伝引上候

但、右困竹矢来、蕨縄ニ而結立出来申候

掛り

藪田助右衛門

成嶋 道筑

坂尾源左衛門

一、同四未年三月四日、飛鳥山石碑矢来取払候

様、土岐大学頭方申来、則金輪寺へ申遣、取払ヒ申候

有徳院様

一、寛保元酉年四月十五日、王子筋 御延氣

御成之節、飛鳥山へ御幕張出来、奥向謡有

之、吹上奉行牧野惣十郎・坊主衆系川玄清  
阿蘭陀人御仕立御供、右兩人御酒被下、御賄  
より蛤・さゝい杯廻シ、松笠ニ而御鳥見焼出、夫方  
御沙汰なしニ山江被為 成、幕之上方御覗キ  
被遊、御笑候、地主山 御立場へ被為 入  
御謡有之、夫方台通、石碑前方往還通、御膳  
所西ヶ原仁平治方江被為 入、御膳相濟、往  
還通 還御、惣十郎・玄清、阿蘭陀人  
之形之俣御供

一、同二戌年、地主山御立場江為御日除赤松  
式本植付被 仰付候、同年又候赤松一本植  
付被 仰付候、内壺本之赤松、其以後立枯ニ  
相成候ニ付、延享元子年植替被 仰付候

右請負人

西ヶ原村

植木屋

権左衛門

掛り

坂尾源左衛門